



令和7年1月30日

# 佐賀県内経済情勢報告

令和7年1月

財務省福岡財務支局 佐賀財務事務所


[お問い合わせ先]

財務省福岡財務支局 佐賀財務事務所 財務課

電話 0952-32-7161

## 1. 総論

### 【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

| 項目   | 前回（6年10月判断） | 今回（7年1月判断）  | 前回比較  |
|------|-------------|-------------|---|
| 総括判断 | 緩やかに回復しつつある | 緩やかに回復しつつある |  |




(注)7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

### 【各項目の判断】

| 項目 | 前回（6年10月判断） | 今回（7年1月判断） | 前回比較 |
|----|-------------|------------|------|
|----|-------------|------------|------|

|      |                     |              |   |
|------|---------------------|--------------|---|
| 個人消費 | 緩やかに回復しつつある         | 緩やかに回復しつつある  |  |
| 生産活動 | 持ち直しに向けた動きに一服感がみられる | 緩やかに持ち直しつつある |  |
| 雇用情勢 | 緩やかに改善しつつある         | 緩やかに改善しつつある  |  |

|      |           |           |   |
|------|-----------|-----------|---|
| 企業収益 | 6年度は減益見込み | 6年度は減益見込み |  |
| 設備投資 | 6年度は増加見込み | 6年度は増加見込み |  |
| 住宅建設 | 前年を下回っている | 前年を下回っている |  |

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、10月の高気温の影響で秋冬物衣料の動き出しが鈍かったものの、飲食料品が好調であるなど、横ばい圏内となっている。

コンビニエンスストア販売額は、来店客数の減少がみられるものの、物価高に伴う客単価上昇により、前年を上回っている。

乗用車新車登録・届出台数は、軽自動車が低調であるなど、前年を下回っている。

ホームセンター販売額及び家電大型専門店販売額は、暖房器具などの季節性商品が不調だったことなどから、前年を下回っている。ドラッグストア販売額は、季節性商品の動き出しが鈍かったものの、物価高に伴う客単価上昇などにより、前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 10月の高気温により冬物衣料の動きが鈍かった。11月以降は気温が下がり前年比プラス。年末年始は大型連休の影響もあり、食料品を中心に好調なほか、訪日客も多くみられた。(百貨店・スーパー)
- 商品単価が上昇している中でも一人当たりの購入点数は増加。ただし、比較的高額な食料品は買い控えが若干みられる。(百貨店・スーパー)
- 物価高の影響で客数は減少しているが、商品の値上げにより客単価は上昇している。(コンビニエンスストア)
- 新たに適用された安全基準の影響で、一部自動車メーカーにおいて生産停止の車種が発生したことにより、10-11月の販売台数が低調となった。12月以降は回復傾向にある。(自動車販売団体)
- 11月中旬まで気温が高く、暖房器具や灯油などの季節性商品が不調だった。(ホームセンター)
- 11月までは高気温により冬物家電の動きが鈍く前年比マイナス。12月によりやく暖房器具が売れ始めたが、物価高の影響により単価の安い商品が売れ筋だった。(家電大型専門店)
- 11月までは高気温により季節性商品が不調だったが、商品の値上げにより客単価が上昇し、売上げは前年比プラス。(ドラッグストア)

### ■ 生産活動「緩やかに持ち直しつつある」

鉱工業指数(生産)でみると、鉄鋼・非鉄金属において、半導体市況の回復の遅れから下降しているものの、食料品において、インバウンド増加に伴う外食向けの出荷の伸びから上昇しているなど、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

- インバウンド増加の影響で外食向けの出荷が伸びており、コロナ前の水準に戻りつつある。(食料品)
- 製品の売行きが好調なほか、インバウンドの増加も業績好調に寄与している。(化学)
- 電気設備関連の受注が好調。値上げを実施したが大きな受注減とならず、売上げは増加。(電気・情報通信機械)
- 顧客の在庫が捌けないため受注が増加しない。AI向けは好調だが、車載向けなどは需要が伸びていない。(非鉄金属)
- 年度当初は7月以降に半導体市況が回復すると想定していたが、直近の出荷量は横ばいか微減。(非鉄金属)
- EV化及び中国メーカーの台頭により、中国向け自動車関連の受注が減少。(金属製品)
- コロナ禍で需要が伸びた小型船の建造・引き渡しが進んでいるなど、操業水準は高い。(輸送機械)

### ■ 雇用情勢「緩やかに改善しつつある」

新規求人数は前年を下回っているものの、有効求人倍率が高水準で推移しているなど、雇用情勢は緩やかに改善しつつある。

- 小売や宿泊において前年の新規オープンに伴う求人増の反動減がみられたことなどから、11月の新規求人数は前年を下回った。一方で求職においては、よりよい条件を希望して在職中の求職者の相談が増加した。(公的機関)
- 若い人材が集まらないことが課題。人材が確保できるまでは外国人技能実習生で補っている。(小売)
- 中小企業にとっては、大企業の大幅な賃上げによって新規採用が厳しくなっている。(金属製品)

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

6年度の経常利益(「電気・ガス・水道」及び「金融、保険」を除く)は、製造業は前年比30.2%の減益見込み、非製造業は同9.7%の増益見込みとなっており、全産業では同21.1%の減益見込みとなっている。規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも減益見込みとなっている。

■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

6年度の設備投資額は、製造業は前年比0.7%の増加見込み、非製造業は同36.6%の増加見込みとなっており、全産業では同4.3%の増加見込みとなっている。規模別にみると、大企業は減少見込み、中堅企業、中小企業は増加見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

住宅建設を新設住宅着工戸数で見ると、前年を下回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(6年10月から12月期)の景況判断BSIで見ると、6年10月から12月期は、「上昇」超に転じている。先行きについて、7年1月から3月期は、「上昇」と「下降」が均衡する見通しとなっている。